

福井市民の誇り GUIDEBOOK



食 — FOOD

歴史 — HISTORY

文化 — CULTURE

PRIDE OF FUKUI CITIZENS GUIDEBOOK

福井市民の誇り GUIDEBOOK



PRIDE OF FUKUI CITIZENS GUIDEBOOK

福井市民の誇り
GUIDEBOOK

「当たり前」を「当たり前」と 感じないために…

ひっでえもんがいいとこやざあ〜

福井市は、福井平野の中心に位置し、日本三名山の1つである白山を主峰とする白山連峰を間近に望み、荒々しくも美しい日本海、そして九頭竜川、足羽川、日野川の3大河川を擁する豊かな自然に恵まれたまちです。また、この自然の中で育まれたバラエティーに富んだ良質な食材の宝庫であり、福井が生んだブランド米のコシヒカリ、新保ナスや木田ちそなどの伝統野菜、金福スイカや越のルビー(トマト)などのブランド野菜、越前ガニやワカメといった海の幸などが有名です。さらには、国の特別史跡・特別名勝・重要文化財の三重指定を受けている一乗谷朝倉氏遺跡をはじめ、旧福井藩主・松平家の別邸である名勝養浩館庭園に代表されるような優れた歴史的遺産や、県指定無形民俗文化財である馬鹿ばやし、重要無形民俗文化財である糸崎の仏舞などの文化的遺産を数多く有する、歴史ある、豊かな文化を育むまちでもあります。

さらに、本市(本県)は、合計特殊出生率、子どもの学力・体力、正規就業者の割合、女性の有業率、通勤時間の短さ、平均貯蓄率、住宅の広さ等、その他各種住みよさランキングにおいて常にトップクラスを誇り、豊かな生活を送ることができる地方都市です。

これらのことから福井県が全国幸福度ランキングNo.1(2016年 日本総合研究所)である由縁を感じることができます。

「おもっしえ〜」がいっぱい

福井市民の誇りGUIDEBOOKには、本市の「おもしろい!!」「こんないいところがあったんか!!」といったような郷土の良さを詰め込みました。もちろん各地区には、ここには載せきれない宝がまだまだ存在しているわけですが、本紙には各地区が厳選した「一押し」を掲載しています。食・歴史・文化と大きく3つのカテゴリーに分け、それぞれに写真を多く掲載しておりますので、雑誌のような感覚で気軽にご覧いただけるかと思います。ぜひ一度、目を通してみてください。

長年同じ場所で過ごしているとつい見落としがちな本市の「良さ」すなわち普段の生活の中で「当たり前」に感じている部分にも、実は本市ならではの素晴らしい事象が凝縮されているということを今一度再認識していただけたらと思います。

一人一イッチョライ

福井市教育委員会は、本市に存在する素晴らしい歴史・自然・文化・産業・景観・生活などの事象を楽しく学ぶことにより、郷土の個性や魅力を見つめ直して愛着心を育み、私たち一人ひとりが誇りと自信を持って生活することを目的とした「福井学」推進事業(郷土学習事業)を考案しました。平成19~23年度の5カ年計画で、市内公民館・小中学校・各種団体の協力のもとスタートしました。前半3年を「学びのステージ」、後半2年を「はばたきのステージ」と称して、体系的な学習に取り組みました。

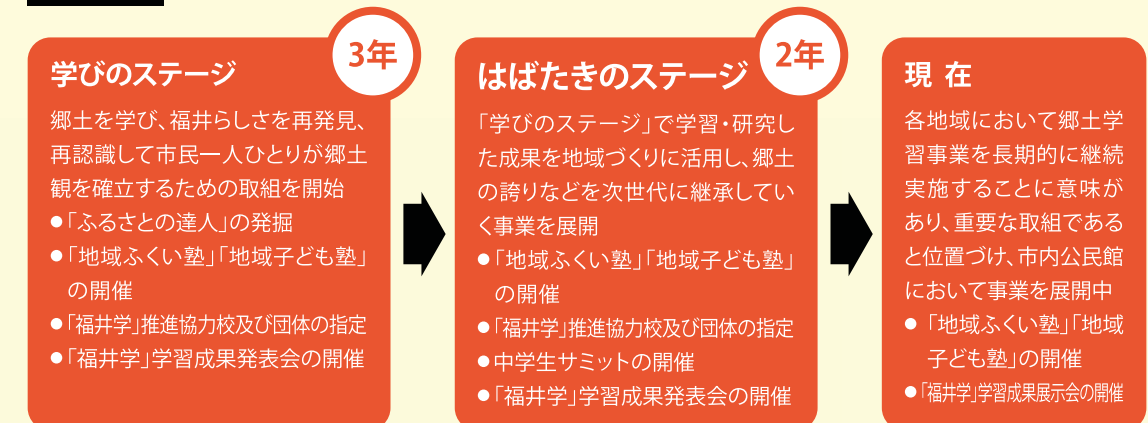
これらの学習を通して、福井市民一人ひとりが「とっておきの」本市の事象について、必ず1つは自信を持って自分の言葉で語るができるようになることをイメージして「一人一イッチョライ」^{*}を提唱しました。5年の計画終了後も、各地域における郷土学習事業は継続して実施することに意味があり、非常に重要な取組と位置づけ、現在も継続して本市の各地域において学習が推し進められています。

^{*}「イッチョライ」とは、福井の方言で“一張羅(とっておき、一番上等)”という意味です。

「福井学」推進事業のイメージ

最終目標 市民が主体となった心豊かな地域社会の創造

基本目標 一人一イッチョライを目指す



「福井学」学習センター (福井市中央公民館)

「福井学」の学習・研究活動促進のため、「福井学」学習センターの機能を持たせ、本市全域を対象とした学習機会の提供を実施

- 「福井学」基礎講座及び特別講座の開催

食 - FOOD

- 木田 ————— 6
- 豊 ————— 7
- 社北 ————— 8
- 上文殊 ——— 9
- 文殊 ————— 10
- 六条 ————— 11
- 美山 ————— 12

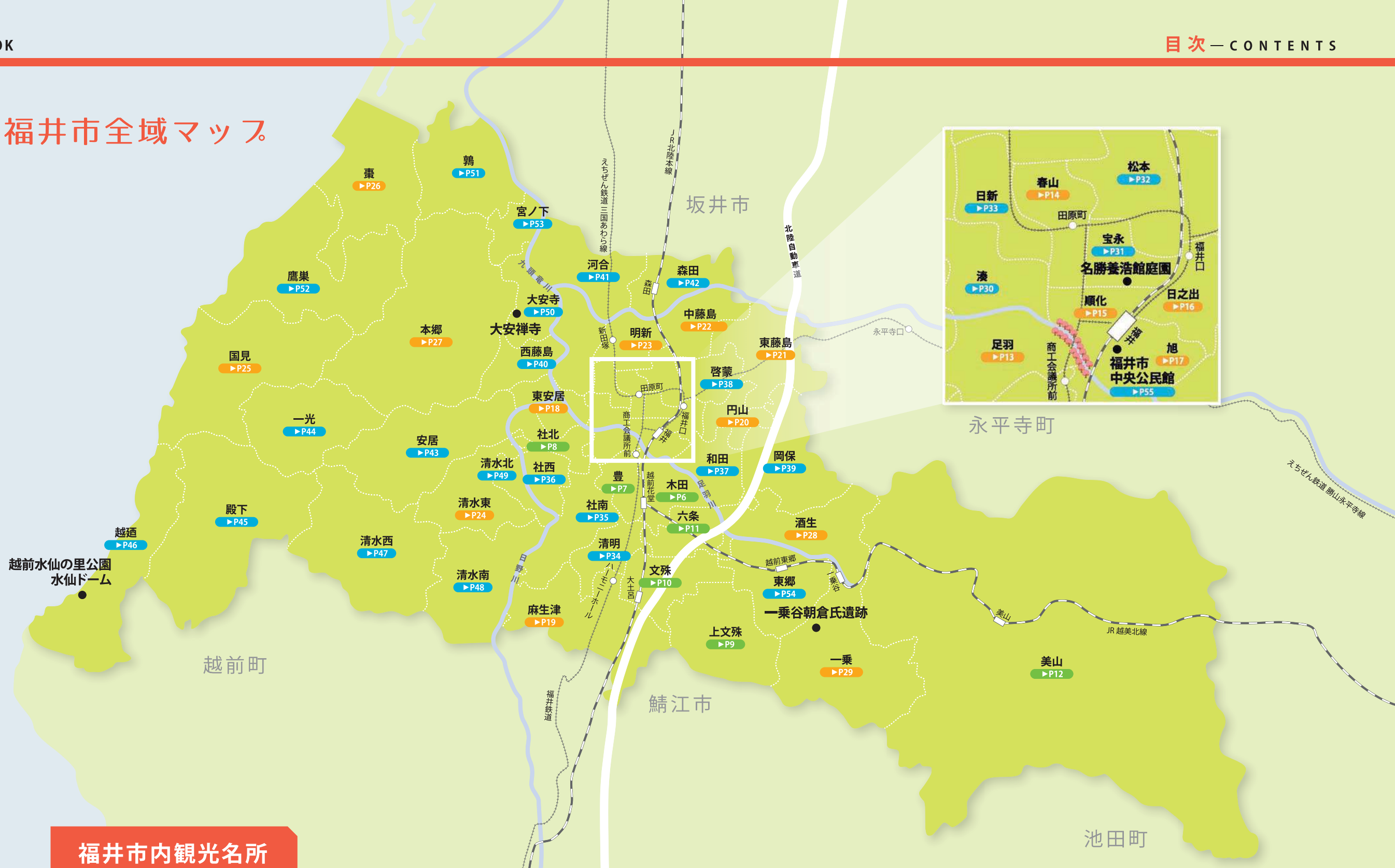
歴史 - HISTORY

- 足羽 ————— 13
- 春山 ————— 14
- 順化 ————— 15
- 日之出 ——— 16
- 旭 ————— 17
- 東安居 ——— 18
- 麻生津 ——— 19
- 円山 ————— 20
- 東藤島 ——— 21
- 中藤島 ——— 22
- 明新 ————— 23
- 清水東 ——— 24
- 国見 ————— 25
- 棗 ————— 26
- 本郷 ————— 27
- 酒生 ————— 28
- 一乗 ————— 29

文化 - CULTURE

- 湊 ————— 30
- 宝永 ————— 31
- 松本 ————— 32
- 日新 ————— 33
- 清明 ————— 34
- 社南 ————— 35
- 社西 ————— 36
- 和田 ————— 37
- 啓蒙 ————— 38
- 岡保 ————— 39
- 西藤島 ——— 40
- 河合 ————— 41
- 森田 ————— 42
- 安居 ————— 43
- 一光 ————— 44
- 殿下 ————— 45
- 越廼 ————— 46
- 清水西 ——— 47
- 清水南 ——— 48
- 清水北 ——— 49
- 大安寺 ——— 50
- 鶉 ————— 51
- 鷹巣 ————— 52
- 宮ノ下 ——— 53
- 東郷 ————— 54
- 中央公民館 — 55

福井市全域マップ



福井市内観光名所



名勝養浩館庭園 宝永地区
 福井藩主松平家の別邸。江戸中期を代表する名園として国の名勝に指定されている。風雅な屋敷と広大な池からなり、春は新緑、秋は紅葉とともに優美な風景が広がる。春と秋の週末にはお茶席が設けられる日も。



一乗谷朝倉氏遺跡 一乗地区
 5代103年に渡り越前を支配していた朝倉氏は織田信長に敗れ、一乗谷は織田軍が放った火により焼亡。400年の時を経て蘇った戦国城下町がかつての栄華を物語っている。



足羽川の桜並木 足羽地区
 日本さくらの名所100選に選ばれている「足羽川桜並木」。約600本、2.2kmに渡る桜並木で、満開の春にはピンク一色に染まった美しい姿を現し、「ふくい春まつり」期間中はライトアップされた幻想的な桜も楽しめる。



水仙畑 越廼地区
 越前海岸に迫る山肌には越前水仙畑が広がり、その発祥伝説がある越廼地区は「越前水仙の里」と言われる。日本海の荒波に向かい咲き誇る水仙は必見。



大安禅寺 大安寺地区
 泰澄大師が開山した田谷寺を祖とし、越前藩主松平家の菩提寺。「花しょうぶの寺」として知られ、6月には「花菖蒲祭」が開かれる。伽藍一帯は国指定の重要文化財。

木田地区の誇り

食べてみんか 木田の伝統野菜

木田地区では「木田ちそ、板垣だいこん、木田青かぶ」が古くから栽培され、「福井の伝統野菜」に認定されている。しかし、市街地化が進むにつれて栽培農家の減少や高齢化が進んでいる。木田公民館では伝統野菜を絶やさず、若い世代にも知ってもらおうと、郷土学習を開催してきた。子どもから大人までが参加し、種まき・間引き・除草・収穫・料理を体験し、農家の苦勞と収穫の喜びを感じ、伝統野菜の特徴や良さを学習している。「木田ちそ」は葉が縮れ、その鮮やかな色と爽やかな香りを活かして、梅干やジュース作り等を楽しんでいる。



「板垣だいこん」は細身で辛味がある大根で、伝統料理の「するめ大根」や「おろしそば」を学習している。「木田青かぶ」は一旦途絶えたが、現在は栽培されている。風味が強く、煮崩れしにくいのが特徴で福井の雑煮作り等に用いられている。



これまでの郷土学習で学んだことをまとめたミニレシピ本「木田ちそをおいしく食べよう」を配布し、多くの方が利用している。学び合いを通して、地域文化への理解や地区に対する誇りと愛着心が育まれている。伝統野菜をぜひ食べてみませんか？

木田の伝統野菜を守り伝える二人
加藤 秀次さん、青山 義弘さん



加藤さんは木田の伝統野菜の生産農家で、『有限責任事業組合ちそのかほり』組合長。青山さんは『板垣だいこんの会』会長。お二人は「多くの人に木田の伝統野菜を食べていただき、その良さや美味しさを伝えていきたい」と話す。

木田公民館

住所／福井市木田1-1401
電話／0776-36-0042
交通機関／すまいるバス「春日3丁目」バス停から徒歩2分

豊地区の誇り

新緑の季節、住民総出で楽しむ「八幡山もえぎ祭り」



名物ヨモギ餅の餅つき大会では、130臼、もち米6俵(360kg)がつかれ、2個入りのよもぎ餅5,400パックが作られる。八幡山などで摘んだ、摘みたてのよもぎ若葉を使った餅は美味しいと評判で、テントの前に長蛇の列ができる。



平成元年に始まった「八幡山もえぎ祭り」は、豊地区の23の各種団体・グループが連携し、準備から後始末まで300名以上の人々が役割を分担し合って実施している。祭りの開催を通じ、住民ネットワークや結束が培われている。



豊地区は旧市街地にあり、八幡山や足羽山、兎越山に囲まれ、自然に恵まれている。地域の特性を活かし、新緑が美しい四月下旬に「八幡山もえぎ祭り」をカルチャーパークで開催している。名物よもぎ餅の餅つき大会をはじめ、弥生汁や甘酒、焼き鳥、ポン菓子など多数の模擬店が出店、アトラクションとして、消防音楽隊のドリル演奏や、子ども太鼓、ヨサコイなどが披露される。また、子どもたちが遊ぶ子ども広場や工作コーナーの設置や、住民自らが作詞・作曲、振り付けをした「みのりよいとこ」の民謡大会など、住民総出で楽しんでいる。



豊公民館 館長
平田 孝次さん



館長の平田さんは、「旧北陸道沿いに栄え、奥の細道の芭蕉句碑があるなど、古い歴史を誇ります。八幡山のふもとには、江戸時代からの古い茅葺き屋根の農家を移築した『おさごえ民家園』があり、昔の暮らしぶりや郷土の習俗が学べます」と話す。

豊公民館

住所／福井市のり3-106-8
電話／0776-34-0344
交通機関／京福バス「豊公民館前」バス下車

社北地区の誇り

東大寺お米送り事業



毎年地区の人達の協力で田植えが出来るように準備される友情田。社北小学校の5年生が田植えに挑戦している。手で植え、農作業の苦労を学ぶ。さらに田植えの楽しさを体験することで、地域の人達との交流を図っている。ぬかるんだ田んぼの感触が気持ち悪いと叫びながらも楽しそうな声が飛び交い、子どもたちの田植えが終わった後は地域の人達が稲の成長を見守っていく。



春に植えた苗の成長を見守り、今度は稲刈りに挑戦する。地域の人達に鎌の持ち方、稲の刈り方の手ほどきをしてもらい、交流を図る。お米を東大寺に奉納する云われや食の大切さを学んでいる。



本年度で15回目を迎えた東大寺のお米送り事業。友情田で作った米を東大寺の秋のまつりに1部奉納する。社北地区が道守壮と呼ばれ奈良東大寺の壮園として栄えた歴史を学ぶことで、地域への愛着を深めている。



まちづくり委員
山形 利昭さん

山形さんは、お米送り事業がスタートした平成14年から現在まで事業運営や維持活動に携わっている。丁寧な作業指導や自主的な草刈りなど温厚で献身的な人柄は多くの住民から慕われている。

社北公民館

住所／福井市若杉4-308
電話／0776-35-9111
交通機関／京福バス「社北小学校前」バス下車

上文殊地区の誇り

まぼろしの里芋を次の世代に



福井市北山町の農業生産組合が、地元で栽培しているサトイモのPRに力を入れている。一般的なサトイモよりも大粒で柔らかく、茎が赤黒いのが特徴。約60年前に偶然見つかった品種で、知り合いの農家に少しずつ株分けし、増やしてきた。昨年「まぼろしのさといも」と銘打ち、みどりののぼり旗を製作し、地元上文殊小学生を対象にした収穫体験会を開いている。スーパーや市場にはまだ出荷しておらず、生産分は予約のみで完売するほど。その存在は口コミで人気が広がっており、知る人ぞ知る、まさに「まぼろしのサトイモ」である。



芋は一般的なものよりやや大きく直径7センチ前後で、茎の高さも1.5メートル以上と長め。現在約千平方メートルで800株ほどを栽培。毎年約2トン以上を収穫している。冬場のおでんやシチューにすると美味しいと評判である。



上文殊公民館のイルミネーション点灯式会場では上文殊小児童が収穫した「まぼろしのサトイモ」を採り上げ、振舞いシチューとして来場者に配布している。「まぼろしのサトイモ」と書いた緑ののぼり旗を掲げ、地元野菜のPRに努めている。



北山生産組合
糸生 幸男さん

このサトイモの発見者である、北山町農業生産組合の糸生幸男さん。「よそにはないサトイモ。担い手を見つけて、いつまでも残してもらいたい」と、地元の伝承野菜としてしっかり根付かせるため、日々努めている。

上文殊公民館

住所／福井市北山町34-1
電話／0776-41-0516
交通機関／京福バス「上文殊小学校口」バス停から徒歩5分

文殊地区の誇り

つなごう伝統の味、豊かな食生活をめざして



春に育つヨモギを摘み選別し、ゆがいて灰汁とりの一連の作業から、子どもたちや中学・高校生も参加してワイワイと餅つきを行い、全員で試食。さらに、地区の一人暮らしのみなさん全員に配布し、春の香りと味を楽しんでいただいている。



若いお母さん方を対象に、子どもたちがアツと喜ぶ「キャラ弁づくり」を開催。お母さん達の手間ひまかけて創作に専念する姿をそばで見ながら子どもたちも参加。出来上がった弁当にみんな大喜びで、食べたり、写真を撮ることに夢中だった。



地元でとれる食材を生かして、昔から作られている料理を参加者が共同して作ることを続けている。特に、若いお母さんや、子どもたちに伝えていくことができると、レシピを用意したり、子どもたちと一緒に料理をしたりと、幅の広い活動を行っている。好評なのは、伝統の味、「にしめ」や「ごじる」。また、簡単に作ることでできる野菜料理も喜ばれている。



若葉会リーダー
山村 博子さん

リーダーの山村さんは、「食生活の改善をモットーに始まったサークル活動で数十年の歴史を持つグループです。最近では伝統の味を見直す活動を主に、様々な料理に挑戦しています。また、一人暮らしの方に食事サービスを届けたり、子ども達も参加して料理体験活動を実施しています」と話す。

文殊公民館

住所／福井市太田町4-11-2
電話／0776-38-0550
交通機関／JR「大土呂駅」から徒歩10分

六条地区の誇り

緑もゆる里 六条



六条地区は、教育事業に力を入れていることが特徴。中でも、各界で活躍する地区出身者を講師に招き、小学校の児童が学ぶ「教えて先輩」が特徴的。この講座の前身となる「達人に学ぶ」の第1回の講師は東京で活躍していた故稲村雲洞さん。以降、バイオリニストの戸田弥生さんなど、全国的に活躍する多彩な人が講師となっている。こうした達人を多く輩出していることが地域の誇りで、講師陣に続く人たちを育む「種まき」として事業を継続しており、一昨年からタイトルを「教えて先輩」に改め、若手を中心に講師を招いている。



六条地区は、田園が広がり、主な産業は稲作である。そこで、子どもたちに、稲作を体験させて米作りを理解するとともに、その大変さ、ひいては働くことの大変さを実感してもらう。春の田植え、秋の稲刈り、稲の生育観察を行っている。



「六条っ子田」で自ら田植え、稲刈りをし、収穫したもち米を用いて、六条小学校の児童全員で餅つきを行う。苦勞して農作業をし、収穫したこと、そしてお米となり、お餅になって、おいしく食べられることに感謝をする。



緑もゆる里六条委員会 会長
中山 眞治さん

自治会連合会長だった平成13年から、地域づくりの活動に取り組む。「昔から六条地区は小学校を中心に活動し、子ども中心のまちづくりを行っています」とのこと。「教育を大切にする伝統を守っていきたい」と話す。

六条公民館

住所／福井市天王町43-4
電話／0776-41-1001
交通機関／京福バス「下六条」バス停から徒歩3分

美山地区の誇り

福井の奥座敷「みやま」からそば文化の発信



10月末に開催される美山そば祭りには、美味しい新そばを求め、一万人以上が来場し、地区上げての自慢の手打ちそばや新鮮な野菜を求め長蛇の列ができる。県は平成2年から5ヵ年をかけ、県内産のそばについてその収量、香り、味等の検査をし、美山南宮地在来と大野在来の2品種を県優良指定品種に選定した。また、美山地区では石臼としては最高の小和清水石を産出し、そして、そば打ちに欠かせない美味しい小清水は至る所に湧き出ている。このような宝物に、人々の意気込みを加え美山のそば文化を発信している。



各地区と愛好会などが出店し、そば打ちの実演、百戸田吾作の粉ひき体験、早食い、流しそばなど終日いろいろな催しがある。また、同日開催されている文化祭も、そば文化と同時に地区の文化も発信しており大変高評を得ている。



美山地区には、日本一のそば打ち体験施設として「みやま長寿そば道場 ぞつつおさん亭」がある。現在は「あさくら水の駅」と併せて、県内外から訪れる多くの皆様に、そば打ち体験や越前の美味しいそばを提供している。



特定非営利活動法人 越前みやまそば元気の会
理事長 富田 謙治さん

平成9年3月、越前みやま長寿そば愛好会として発足し、平成16年1月、NPO法人となる。理事長の富田さんは、「各人のそば打ち技術の向上とそば振興に関する様々な活動を展開し、そばを通じたまちづくりに励んでいます」と話す。

美山公民館

住所／福井市美山町2-12
電話／0776-90-7111
交通機関／JR「美山駅」から徒歩10分

足羽地区の誇り

歴史と自然に抱かれた“煌めくあすわ”



萩の寺として知られる瑞源寺は福井藩5代藩主の菩提寺である。本堂と書院は福井城本丸御殿から移築されたもので、福井城に関わる唯一の遺構であり県指定文化財。毎年9月中旬には萩まつりが開かれるなど、歴史と自然と文化の薫る安らぎの空間として親しまれている。



足羽山へ続く愛宕坂沿いには、明治の歌人橋曙覧の居住跡に「橋曙覧記念文学館」や「愛宕坂茶道美術館」、山頂には越前最古の歴史を有する足羽神社や継体天皇像があり、足羽山への歴史の道となっている。春と秋には灯りの回廊として石段が行灯でライトアップされる。



足羽地区は、幕末から明治維新にかけて日本の変革に大きく寄与した橋本左内、由利公正など偉人ゆかりの地である。左内公園内には橋本左内先生の銅像が建立されており、春には「幕末の偉人に学ぶ」をテーマに「あすわ左内まつり」を開催、また、先生の命日である10月7日には、公園内の菩提所において墓前祭を行うなど左内先生の遺徳を顕彰する活動を続けている。なお、この左内公園を橋南地区観光の起点として盛り立てていこうと、地域住民の有志により日々清掃・整備活動が行われている。



足羽公民館 館長
善里 嶺信さん

平成17年から現職。「自然豊かなこの地区には寺社仏閣が多く点在し、歴史的にも福井発祥の地とされる由縁です。この遺産を大切に、地域文化を創造するための学びと交流を深める活動を推進していきます」と話す。

足羽公民館

住所／福井市足羽2-12-31
電話／0776-35-0041
交通機関／すまいるバス「足羽ふれあいセンター」バス停下車

春山地区の誇り

橋本左内先生が生まれ育った“清新な文化と歴史のまち”

橋本左内先生は天保5年、福井城下常盤町(現、春山2丁目)で医家に生まれた。幼いころから学問を好み15歳の時に「啓発録」を著し、16歳の時大阪に出て緒方洪庵の適塾で蘭学、西洋医学を学び、帰国後は藩医として父の後を継いだ。21歳のとき江戸で蘭学を学び、24歳で藩校明道館の学監同様心得に任じられ、松平春嶽公に仕え將軍継嗣問題等の国事に奔走したが安政の大獄で26歳の若さで斬首に処された。生誕地には宅跡を示す石柱と左内先生の産湯に使われた“常盤の井”、“御物啓発録碑”が保存されており、毎年4月11日に生誕祭が執り行われている。



春山公民館には左内先生の胸像と座右の銘「急流中底之柱即是大丈夫之心」の木碑が飾られている。胸像は福井市体育館前にあった青年の家で50有余年、青雲の志を抱く若者を見守ってきた像であり、平成21年同館取り壊しに伴い春山公民館にお迎えをした。



春山小学校の児童は6年生になると授業で左内先生の学びを始める。生誕祭で「左内先生を讃える歌」を斉唱し、また、地域の“左内塾”のメンバーから話を聞き、一人ひとりが様々な視点で「左内新聞」を作成し、秋の公民館まつりで成果を発表する。



春山公民館 館長
柳沢 全之さん

春山は藩政時代から戦前にかけて福井城下の交通の要、商工業の中心地であり、その名は松平春嶽公の号に因み名づけられた由緒ある地名である。まさに、文教・司法の町、「清新な文化と歴史のまち、学びのまち」である。

春山公民館

住 所／福井市文京3-11-12
電 話／0776-22-0057
交通機関／えちぜん鉄道「福前西福井駅」から徒歩5分

順化地区の誇り

歴史を語り継ぎ新たな文化を創造するまち順化



「福井城址お堀の灯り」は築城以来の往時を偲び、また空襲や震災などで亡くなった人々を鎮魂し、市民ぐるみで福井のまちづくりを推進するものである。平成22年、順化地区住民を中心に350個から始められたライトアップ事業であるが、平成28年には、お堀の水面に2000個余りと地上の灯りを含め、福井藩68万石にちなんで、合計6800個の美しい揺らめきを醸し出した。市民憲章「不死鳥のねがい」のごとく、鎮魂の灯りを語り継ぎ、次世代へ希望の灯りとしてつなげることが願いである。また、空襲や震災のアーカイブにも取り組み始めた。



「私たちが考える私たちの公園」福井市中央公園再整備事業にあたり、郷土学習事業として住民が何度も集まり話し合い、新中央公園の提案を行った。歴史が見える公園、市民が楽しめる公園の2本の柱をコンセプトに進められている。



順化万霊供養塔は、順化地区自治会連合会を中心に区民の浄財により建てられた慰霊塔である。昭和42年、県庁横御本城橋のもとに建設され、現在は順化小学校を背にお堀の前にある。これが、お堀の灯り事業の原点である。



順化お堀の灯り実行委員会 実行委員長
海道 映諄さん

平成24年から順化地区自治会連合会役員。平成28年順化お堀の灯り実行委員会初代実行委員長に就任。カヤック操縦による灯り設置を取り入れスピーディな事業展開、歴史を語り継ぐ重要性を説き、アーカイブ作業に尽力している。

順化公民館

住 所／福井市大手3-11-1
電 話／0776-20-5458
交通機関／JR「福井駅」から徒歩5分

日之出地区の誇り

永平寺の歴史と城下町の名残の町「日之出」



日之出地区には、永平寺に関わる歴史的な史跡が残っている。天正年間、一向一揆により永平寺は諸殿堂を焼失したため、第19世の祚玖は宝物を携えて北ノ庄に逃れ新永平寺を建立した。織田信長による一向一揆平定後、祚玖は旧地に帰り永平寺を再建。新永平寺は弟子の祚天に譲られ、北ノ庄の鬼門除け鎮護として鎮徳寺と改称され、現在に至る。



志比口地区には、お茶場として親しまれている「曹洞宗の仙寿院」がある。永平寺に参詣する善男善女のための湯茶の接待に努めた功績により、本山永平寺から「大本山茶場」の称号を与えられた由緒ある尼寺である。

「自分の住んでいる街をもっと知り、誇りを持とう」をモットーに、ひのでまちづくり協議会が主催して日之出小学校児童や地区の方々とひので探検ウォークラリーを行っている。日之出地区には埋もれた史跡がたくさんあることを発見し、NHKテレビや新聞にも紹介された。



日之出地区の中には、福井城の城下町として栄えた地区がある。「日親地区」「日之出中地区」と区分される地区で、ここには当時のまちの名前が今も自治会名として残っている。日出御門は日之出地区名の基であり、旧永平寺、西永平寺、鶴匠町、割場、新材木町など数多くある。



日之出公民館 館長
古宮 義信さん

館長の古宮さんは、「日之出地区は、福井市の中心市街地に近く商業施設も多く生活しやすい。福井県立病院や公共医療機関や介護施設、こども歴史文化館や学校など教育施設にも恵まれ、住みたくなる町として発展している」と話す。

日之出公民館

住 所／福井市四ツ井1-7-24
電 話／0776-54-0040
交通機関／えちぜん鉄道「福井口駅」から徒歩10分

旭地区の誇り

福井の学問発祥の地「旭」



福井藩13代藩主治好はるよしのとき、文政2年(1819)に旭地区の桜の馬場(現在の旭小学校)に学問所「正義堂」が創設された。武士の子弟だけではなく、誰もが入学できる開かれた学問所であった。福井藩が武芸から学問を重視する藩へと大きく転換した。吉田東篁とうそうは最初の入学生であり後に教師となり、橋本左内、本多修理、鈴木主税しゅじ、村田氏寿うじひさをはじめ、杉田定一など明治維新における福井藩の中心人物は、ほとんど吉田東篁の門人であり、東篁によって教えられた偉才ばかりであった。



唯一の本県出身総理大臣である岡田啓介や世界的に声望のある地震学者の大森房吉、二・二六事件で殉職した松尾傳蔵大佐、国文学の父といわれる芳賀矢一はがやいち、未完の陶工塚原芥山など枚挙にいとまがない。



私達福井市民が誇るべき先人を数多く輩出してきたが、歴史と伝統を重んじる地でもある。火産霊神社に伝わる県無形民俗文化財の「馬鹿ばやし」や杉社白髭神社の「七夜踊り」などの伝統行事が、連綿と現在に受け継がれている。



馬鹿ばやし保存会会長、旭散歩歴史塾塾長
渡辺 本爾さん

馬鹿ばやし保存会の会長を平成24年から受け継ぎ、後継者育成のため「子ども馬鹿ばやし」として保存に取り組んでいる。平成27年に「旭区史」を編纂し、同年旭区民が参加する「旭散歩歴史塾」を結成し、塾長となる。

旭公民館

住 所／福井市手寄2-1-1
電 話／0776-20-5364
交通機関／JR「福井駅」から徒歩5分

東安居地区の誇り

下市山ミルキングコースと歴史の散歩道



地区西側に位置する下市町に地区住民らの手により整備され、平成18年に完成した「下市山ミルキングコース」がある。下市山は海拔260m程の低い山で、頂上からは胸のすくような景色が広がり福井の街並みが一望でき、はるか彼方には白山連邦から日野山までも見渡せる絶好の場所である。登山口も、みくりや清水側・下市側・ため池側・弘祥寺側・金屋町側の五ヶ所あり、いずれのコースからも頂上広場までは約1時間で登ることができ、身近な登山コースとして地区内外の愛好家に親しまれている。3月～4月にはコース沿いのカタクリの花も開花し、ため池側コース沿いの「かたくりの路」は県内有数の群生地とされる。コースは地区のボランティアグループ「菜の花公夢典」により、定期的に管理され登山道・案内板などが整備されている。

ミルキングコースの山のふもとには、南北朝時代に足羽七城として築かれた「安居城址」があり、越前朝倉氏の祖広景の子正景が、康永元年に創建した「大治山弘祥護国禅寺」は、朝倉氏の滅亡後、灰燼に帰したが、御本尊の釈迦如来坐像と脇侍の立像は、今も京都の建仁寺に遷され本堂に御本尊として祀られている。また、継体天皇とゆかりのある「与須奈神社」があるなど、一帯が日野・足羽両川の合流点を望む地域の歴史を物語る歴史の散歩道となっている。



「菜の花公夢典」事務局長
川崎 栄祠さん

局長の川崎さんは、「下市山ミルキングコースは、手軽なハイキングコースや登山のトレーニングの場として、幅広い年代の皆さんに親しまれています。歴史の散歩道と合わせてご堪能ください。詳しいマップは公民館にあります」と話す。

東安居公民館

住 所／福井市飯塚町6-18
電 話／0776-35-9566
交通機関／京福バス「水越」バス停
または「飯塚口」バス停
から徒歩5分

麻生津地区の誇り

麻生津ふるさとカルタの歴史・文化・自然



「文殊山は自然・史跡の宝庫なり」養老元年に泰澄大師が開山。山上の本堂には文殊菩薩・奥の院に正観音菩薩・室堂に阿弥陀如来が安置され、毎年、参拝者が絶えない。この山は自然に恵まれ、生物・植物・鳥類等の種類も多い。



ハーモニーホールふくい(福井県立音楽堂)は、平成9年9月今市町に開館した。世界の美しいコンサートホールの一つとしてインターネットで紹介される。初めは運営を危ぶむ声もあったが、国内外の演奏が出来るホールとして評価が高い。



清原宣賢卿は、室町時代の学者なり。当代随一の国学者、儒学者と評された。朝倉氏とは関係が深く、四代孝景の招請に応じて幾度か京より越前に出向かれた。晩年は一乗谷に居住し、朝倉氏やその家臣に積極的に儒学や「日本書紀」などの古典を講義して一乗谷文化に大いに貢献した。徳尾町禅林寺には、石碑や墓がある。墓は昭和32年に県の指定史跡とされている。



麻生津公民館 館長
増永 五郎兵衛さん

館長の増永さんは、「全国トップレベルの福井県のかたるを、常日頃誇りに思っていたが、今回麻生津地区においても、地区内の歴史、伝統、文化産業等の古文書を含めて掘起こし、ふるさとを再認識頂ければ幸いに存じます」と話す。

麻生津公民館

住 所／福井市浅水三ヶ町1-93
電 話／0776-38-4383
交通機関／福井鉄道「浅水駅」から
徒歩10分

円山地区の誇り

荒川に生まれ 未来に翔く うらがまち 円山



円山地区の若手まちづくりグループ「円山CMB」は、今年から県内ではまだ作付けされていないリゾート専用米に着目し、東今泉町の水田で田植え・稲刈を行い、収穫祭を開いた。世代間の交流を一層深めることに努めている。



「歴史を学ぶ会」は歴史を楽しく学ぶ事で、郷土の特徴や魅力を発見し、愛郷心を育みながら次世代に繋げる活動を行っている。大河ドラマで注目の人物を研究して、講演会を催し、歴史通人間を増やすといった活動を展開している。



円山公民館には、戦後福井の文学界をリードした鳥取県出身の詩人、故則武三雄(1909~90)の「文学記念コーナー」がある。則武氏が亡くなる直前に書いた直筆の詩稿やペン、すずりなど貴重な品々約60点が並んでいる。則武氏は師事した三好達治に誘われ37歳で三国町へ移住。その後、宝永に移り詩人らの拠点となる「北荘文庫」を創設。47歳で円山に移り、地元の大東中の校歌を歌詞したり、福井を舞台にした詩集「紙の本」を作り、晩年まで過ごした。着物姿で筆とすずりを持ち歩き、「げたのおんちゃん」と親しまれていた。



前 円山公民館 館長
宇佐美 一朗さん

ふるさとの詩人「則武三雄」のビデオ制作を始め、地区史「円山地区の昔と今」などの編纂に関わる。また、円山地区の史跡や歴史に精通し、小学生向けに「ふるさと円山史跡案内」などの冊子も作成した。

円山公民館

住 所／福井市北今泉町7-12
電 話／0776-54-0048
交通機関／京福バス「円山公民館」バス停車

東藤島地区の誇り

岡倉天心ゆかりの地「東藤島」



東藤島地区は、東京美術学校を開校し、校長として世界に日本文化を紹介した岡倉天心ゆかりの地である。天心は、福井藩士岡倉勘右衛門の子として横浜で生まれた。幼年時代に橋本左内の影響を強く受け、「私は日本国越前の生まれである」と語り、越前人の血が流れていることに終生誇りを持って生き続けた。毎年、東藤島小学校の児童や地区民を対象として『岡倉天心を知ろう』という学習会を開いてその生い立ちや偉業について学習している。



毎年、『岡倉天心福井県顕彰会』が天心の命日に当たる9月2日、菩提寺である浄土真宗本願寺派西超勝寺で『天心忌』を行って遺徳を偲んでいる。当日は東藤島小学校の6年児童も参列し、天心の功績をたたえる『誓いの言葉』を述べている。



岡倉家の墓碑は西超勝寺の境内の一角にあるが、その場所がわかりにくかった。『岡倉天心福井県顕彰会』では、案内の標柱を立て墓碑の周りを整備した。命日には大勢の方がお参りに来られている。



東藤島公民館 館長
山下 和雄さん

平成27年度から現職。「東藤島地区は近代日本美術界をけん引した岡倉天心ゆかりの地です。『岡倉天心福井県顕彰会』に参画している方々を中心に、天心の偉業を後世に遺し伝える活動を活発に行っています」と話す。

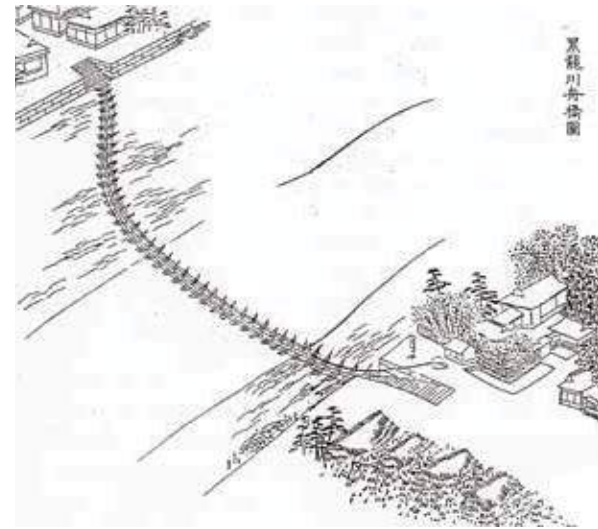
東藤島公民館

住 所／福井市藤島町48-1-1
電 話／0776-54-0039
交通機関／えちぜん鉄道「東藤島駅」から徒歩3分

中藤島地区の誇り

九頭竜川に育まれた中藤島地区

天正6年(1578年)、柴田勝家が越前の国浦々から48艘の舟を徴収して藤蔓や鎖でつなぎ、板をひいて架設したもので、天下の三舟橋の1つとして名所と謳われるようになり村の名前も舟橋と改名。これが、北の庄の城を守る北方唯一の要害関門となり、橋奉行(四王天但馬守)を置いて徳川幕府末期まで管理に当たらせ、明治19年(1886年)木造の橋が架けられるまでの約300年間使われた。九頭竜川の両岸には、舟橋史跡碑や48艘記念碑、四王天但馬守家事蹟碑が建立されている。平成14年には48艘の模型作製、平成15年には「舟橋」の再現を行った。



黒龍神社(舟橋)の左義長は、北陸最大級の大きさの左義長で(高さ12m、直径7m)疫病消除、無病息災、五穀豊穡を祈って行う。この火まつりは、特に九頭竜川の龍神の精の鎮魂を神に祈る庶民の素朴な行事である。地区内には、他にも12基の左義長が建っている。

高柳遺跡は、福井都市計画事業市場周辺土地区画整理事業に伴って発掘され、高木町、高柳町、大和田町、寺前町一帯に広がる縄文時代晩期から中世にかけての複合遺跡である。広さは約1平方キロメートル。女性をかたどった縄文時代の顔型土偶や、奈良時代から平安時代の有力豪族の姓と考えられる「生江」の墨文字が書かれた須恵器、住居跡などが出土され、九頭竜川流域における暮らしの様子の変遷がみられる。(高柳遺跡より出土)



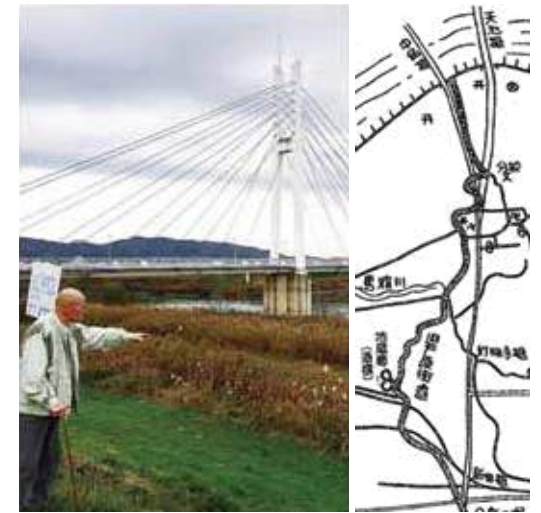
明新地区の誇り

暮らしやすい 住みたくなるまち めいしん



北陸道道標地蔵は、現在の芦原街道(北陸道)から西側100mの場所にあり、古くは「三国道」或いは「中角街道」と言われていた北陸道への道標である。北陸道は藩政時代には城下から川北へ行くには最も重要で人の往来が多く、現在も住宅内を通っている。

日野川との合流地点に近い九頭竜川左岸に渡河集落として舟橋新が発達した。写真の人物が指で指す方向に「中角渡船場」があったと伝えられている。「朝倉始末記」には「中角渡り」とあるように、明治8年に中角橋ができるまでは芦原・三国方面へ行くための渡船場として街道交通の要衝であった。



新田神社は新田義貞の兜が発見された場所に石碑と堂が建てられ「新田神社」と呼ばれるようになった。現在は、例祭が行われる場所としてはもとより、「新田塚」という町名に使用されていることから地域住民に親しまれている。新田神社の先を流れる「赤川」は、新田義貞が戦った際に血が流れて赤く染まったと伝えられており、経田から九頭竜川に合流する「馬渡川」は「新田軍藤島の戦い」で馬を渡したことが由来になっている。地区のたい焼き屋「たい夢」では、「新田塚焼き」を販売している。



中藤島公民館 館長
服部 邦雄さん

平成23年から現職。元教師。そのキャリアを活かし、青少年教育や子育て支援事業などに関わる。「九頭竜川は中藤島地区の宝」で大切にしたいの思いから九頭竜川クリーン作戦や歴史の学習に力を入れている。

中藤島公民館

住所／福井市高木北2-1001
電話／0776-54-0045
交通機関／京福バス「中藤島公民館」バス下車



明新公民館 館長
板谷 悌三さん

館長の板谷さんは、「明新地区は福井市で一番の人口を抱え著しく発展しているが、新旧の町が混在しており、歴史をたどるといろいろな発見がある。我が地域の歴史を後世に伝えられるよう更に研鑽を続けていきたい」と話す。

明新公民館

住所／福井市灯明寺町35-1-1
電話／0776-22-7880
交通機関／京福バス「二の宮4丁目」バス停から徒歩3分

清水東地区の誇り

里地里山ならではの郷土伝統



「清水東神社誌」は清水東地区の集落にある各神社の由緒や村の生立ちなどを紹介している。神社を通して、地区の歴史を知ることが出来る。



「小羽山30号墓」は、福井市指定史跡に指定されており、方墳四隅が伸びた形態の四隅突出古墳である。この種の古墳としては比較的大きく、その姿がはっきりわかるものとして珍しく、発掘された副葬品から、弥生時代の首長の墳墓だと推定されている。



「菅笠」は、江戸時代より農家の副業として盛んに作られており、農閑期に湿地の有効利用として行われる菅笠づくりは冬季の大きな収入源となっていた。平成元年に清水杉谷町では「越前菅笠を守る会」が結成され、原料のすげの栽培、竹の骨組み作り、笠縫いの伝統を守り続けている。



「越前菅笠を守る会」代表
田中 久則さん

代表の田中さんは、「戦後から菅笠の需要が減ると共に作り手も減少。それを食い止めるべく発足した『越前菅笠を守る会』は、技術の継承に取り組むため、後継者養成講座や小学校における体験教室で会員の方々と指導を行っています」と話す。

清水東公民館

住 所／福井市三留町14-11-1
電 話／0776-98-4510
交通機関／京福バス「三留」バス停から徒歩5分

国見地区の誇り

悠久の歴史と自然の豊かさが今に残る「国見」



毎年1月2日、白浜漁港で大漁祈願の餅まき行事。昔、出雲の国で戦いに敗れた武士が、船で若狭湾を經由して白浜町へ移住した時の伝統が、今も継承されている。舟祝いは漁師が大漁と海上安全を願い、船主が船の周りに集まった大衆に餅を撒く行事。船主は舟祝いの前々日の大晦日、地区の神明神社で「海上安全」を祈願する。当日は「幸運の餅」を拾おうと地区住民はもとより、メディアで取り上げられるため、県内外からの来浜者もあり今も大いに賑わっている。



鮎川町の消波壁「ブルーシー鮎川」を会場として、国見地区の風土や文化を全面に押し出し、スタッフは地区民挙げて全員参加し「海」に関する体験型のイベントを展開している。①筏の瀬渡し②魚の掴み取り③カヌー体験④海女桶体験など一日中親子で楽しめる。また、食の市テントがズラッと並び、毎年右肩上がりの来場者で賑わっている。

昔、この地区(小丹生町)に幾日も雨が降らず、困り果てた村人が氏神様(春日神社)に雨乞いをしたところ、期せずして田畑に恵みの慈雨が降り注いだ。その時、村外れの断崖絶壁に、右は草履と左に足袋型があるのを発見(写真)。以来、ここを神域として「神の足跡」と名付け、現在に伝承されている。(写真:左「春日神社」、右「神の足跡」)



国見公民館 館長
重森 俊道さん

当国見地区は神仏に対する畏敬の念篤く、古来より継承されている伝承行事を大切にしている。永い歴史の中で先人が残した尊い「歴史や文化」に誇りと自信を持ち、新しい方向性を目指して、更なる地域の活性化に取り組んで行かなければならないと常に思っている。

国見公民館

住 所／福井市鮎川町195-7
電 話／0776-88-2004
交通機関／京福バス「国見公民館前」バス下車

栗地区の誇り

わたしたちの心のふるさと「朝倉山」



「朝倉山」は高さ約173m。栗地区の中央に位置し、頂上からの眺めは日本海を一望できる。戦国時代には朝倉義景の一乗谷奉行衆の一人、朝倉玄蕃助景連という武将が頂上に居館を築いて一向一揆に備え、太平洋戦争中の昭和16年には防空監視哨が設けられ栗村や三国町の人々が海や空の監視を続けた。また、居館跡からは経筒が発見され、納められていた経巻は当時の仏教思想に関する貴重な資料として栗公民館に保管されている。栗の歴史をふりかえり、将来の栗について語り合える場所として親しまれている山である。



山頂まで歩いて30~40分を要するが、近年間伐材運送のために車道が整備され、歩き易く、マイカーでも登れる身近な山となっている。春・秋にはまちづくり団体である「自然王国なつめ」が草刈りや枝打ちの作業を行っている。



平成25年、頂上に設置されていた展望台に、鐘を取り付けて全国にその愛称を募集、地元中学生の『栗鈴』が選ばれた。毎年、住民あがての朝倉山登山企画に間伐材の木工体験などを取り入れて山の恵みを子ども達に伝える取組を実施している。



まちづくり組織「自然王国なつめ」代表
湯口 英一さん

地元で製材業を営む傍ら、地域の活性化や青少年教育に熱心に取り組んでいる。「特に朝倉山の整備や活用には製材のキャリアを生かして関わっています」と話す。「栗の良さを誇れるように」との思いがその活動を支えている。

栗公民館

住 所／福井市石橋町4-14
電 話／0776-85-1495
交通機関／京福バス「栗農協前」
バス停から徒歩3分

本郷地区の誇り

古が眠る名刹龍興寺跡



龍興寺は永享初年(1430年頃)安居代官藤原清長により創建され、天正二年(1574年)一向一揆の放火のため廃寺となるまで、約150年間繁栄した大寺であった。曹洞宗の寺として八幡町南東の山頂に建立されて、最盛期には七堂伽藍を誇った名刹といわれ、当時「八幡の龍興寺」と呼ばれていた。「越前拾遺録」には「本郷龍興寺小豆坂ノ奥ニアリ。曹洞希明ノ開祖ニテ、七堂伽藍ノ大寺ナルニ、天正二年兵火ニカカリテ退転シ、希明ハ天真ノ弟子、四哲ノ内也。本尊開山ノ像 宝物等、末寺故二福井心月寺ニ在リ。」と記されている。



ここに記されている小豆坂は、土が小豆色をしていることから名付けられ、大安寺剣大谷より龍興寺に至る道と「越前名跡考」に書かれている。現在は道路も整備され、途中足羽川と九頭竜川や福井の市街地が一望できる。

龍興寺周辺の自然を活用したイベント(史跡学習、参道への植樹、樹木の名札付け、しいたけ駒打ち体験、丸太切り競争、ため池への魚の放流など)を通して子ども達が龍興寺の歴史に親しむ事業を実施している。



夢プラン本郷地区委員会活動組織会長
吉田 徳寧さん

会長の吉田さんは、「地区の埋もれた歴史を発掘し、後世に伝える為に、毎年春と秋の龍興寺ウォークを通して、史跡龍興寺で歴史学習と周辺の自然体験を実施しています。古を訪ねるイベントにぜひご参加ください」と話す。

本郷公民館

住 所／福井市荒谷町19-55
電 話／0776-83-0582
交通機関／乗合タクシー「荒谷」
停留所から徒歩1分

酒生地区の誇り

いにしえロマンの里・・・酒生



奈良に東大寺が建つ少し前、郡司だった生江氏が、ここ「塔垣地(字)」に氏寺を建て福井を広く治めていた。私たち「遺跡祭り」の灯行列は、写真の大礎石がスタート地点。五重ノ塔に想いを馳せれば、明日香人とも交わった先人達の暮らしぶりが見えてくる。



鎌倉時代の建暦二年(1212年)神奈川県の鶴岡八幡宮。正月恒例の「弓場始め」で源実朝より日本一！と褒められた小國頼繼。強い麻を産する越前の稲津の地頭職に任命され、上屋敷(字)に館を構えた事から旧村役場・小学校の紋章は「弓形づくし」である。



金沢市小立野と福井市足羽山愛宕坂に、酒生ゆかりの古刹の話が残る。前者は、天正12年(1584年)加賀百万石をのちに築いた前田利家公、後者はその一年後北ノ庄に入った東郷城主によって、村に残った観音堂が愛宕坂に分寺され移された。波着寺は、養老年中に泰澄大師によって開かれ、平安時代に成願寺山の中腹にたった観音霊場である。酒生の生江氏の篠尾廃寺が大風で倒れ、約半世紀を経て吾が平野を見下す所に建てられた事になる。道元禅師入越ゆかりの寺でもあり、写真は山の全景、そして波着観音は村の大山咋神社に合祀され、今も地区の安寧を見守っている。

一乗地区の誇り

三峯山城跡に登って一乗谷を見てみませんか！



三峯は(404.5M)、鯖江市北山中地籍にあり、南北朝時代の延元3(1380)年、脇屋義助(新田義貞の弟)が初めて、足羽・今立両郡の境にある三峯山に三峯城を築いた。戦国時代には朝倉の支城でもあった。遠くから眺めると三つの峯が見え、越前の喉元を抑える要所である。鹿俣町有志の協力により、一乗からの登山道が整備され初心者でも登れるようになった。毎年「三峯城跡探索ウォーク」が開催され、所要時間は片道約1時間。一度登ってみてはいかが。



大イチョウの木の周辺で、三峯城、三峯村、三峯寺などの歴史を学ぶ。



「三峯城跡探索ウォーク」の開催時には地元の女性の協力で「しし鍋」「おにぎり」のふるまいを行っている。



酒生の歴史講座生(酒生地区の語り部) 櫻川 幸夫さん

語り部の櫻川さんは、「31歳の時、永平寺へ初詣に出、ふと手に取った一冊に『・一乗谷(福井市成願寺町)に道元禅師、立ち寄る』の一文。竹ヤブの石鳥居に「波著寺」と彫られた額東を見た時の感動は今も忘れられません」と話す。

酒生公民館

住所/福井市荒木新保町37-9-5
電話/0776-41-2503
交通機関/京福バス「酒生公民館」
バス停から徒歩1分



一乗公民館 館長 山口 藤章さん

館長の山口さんは、「地元の有志によって整備された登山道に登って、福井平野・一乗谷の全貌を楽しみ、一汗かいた後は美味しいしし鍋とおにぎりで自然を満喫してください」と話す。

一乗公民館

住所/福井市西新町1-31
電話/0776-43-2001
交通機関/京福バス「西新町」バス停から徒歩3分

湊地区の誇り

歴史と桜並木を活かした「越前湊さくら祭」



「越前湊さくら祭」は、約100本の桜が並ぶ足羽川右岸堤防沿いの照手・木町さくら並木通りを会場に、毎年4月に開かれている。14回目を迎えた平成28年度は2日間にわたって開催され、足羽川の水運で栄えた湊地区の歴史を活かし、水辺の空間を活用して右岸堤防下の河川敷でも実施された。1日目は河川敷にステージを設けてダンスやバンド演奏などを披露、水辺の屋台村が並び、夜まで行われた。2日目はさくら並木通りで、湊地区の各種団体などが28の屋台を出店。民踊や合唱、ダンスなどのステージ発表が行われ、大勢の人が訪れてにぎわった。



照手・木町さくら並木通り沿いの堤防に設置されている「福井藩十二カ月年中行事絵巻」のレリーフには、江戸時代の福井城下の代表的な行事や風物が月ごとに描かれている。越前湊さくら祭では、毎年来場者に絵巻の説明会が行われている。



平成28年度の湊さくら祭に際し、湊まちづくり協議会が中心となって照手・木町さくら並木通りにあんどん50基を設置。前年に設けられたぼんぼりと共に桜の開花時期にライトアップした。この事業が福井市景観賞風景部門の部門賞を受賞した。



越前湊さくら祭実行委員会委員長
上藤 隼夫さん

平成28年度の実行委員長として湊地区の各種団体の意見を取りまとめ、2日間開催の湊さくら祭を成功に導いた。湊3区自治会連合会長。「湊さくら祭で地区民の絆を強め、“湊の宝”を発信していきたい」と話す。

湊公民館

住 所／福井市学園1-4-8
電 話／0776-22-0032
交通機関／京福バス「湊小学校前」バス停北側

宝永地区の誇り

歴史とであう街 宝永



毎年8月上旬に、養浩館庭園に隣接するお泉水公園で「お泉水フェスタ」が開催される。「宝永音頭」「どんと宝永」といった宝永の民踊を中心とした民踊大会を始め、ステージイベント、出店など地域で楽しめるイベントとなっている。



公民館の郷土学習で、平成23年に「宝永れきしカルタ」が完成し、地域の歴史を学ぶことのできる教材として活用している。公民館講座や宝永小児童の授業で「宝永れきしカルタ」ウォークを開催し、楽しく郷土の歴史を学んでいる。



毎年3月の梅の花の咲く頃、地区民一体となって「養浩館庭園ライトアップ」事業が開催されている。平成元年から続く事業で、毎年、地区民、宝永小児童、幼稚園児、進明中美術部のあたたかい絵をあんどんにし、手づくりローソクで照らす。ライトアップで池に浮かぶ庭園と沿道にあんどんが幻想的で、毎年地区内外から2,000人以上が来園する。また、地区団体の人達による、お茶席、甘酒、梅こぶ茶などのおもてなしも行っている。



宝永公民館 館長
塚谷 直人さん

平成17年から現職。以前は、宝永まちづくり委員会の企画委員長として活動していた。今後も、「地区の誇りである「養浩館庭園」を中心に、江戸時代からの歴史ある宝永地区として、次世代に繋げていく活動をしていく」と話す。

宝永公民館

住 所／福井市松本4-8-4
電 話／0776-22-0036
交通機関／福井鉄道・えちぜん鉄道「田原町駅」から徒歩5分

松本地区の誇り

自然豊かな底喰川と共に

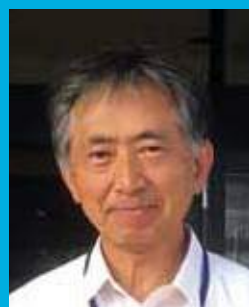
底喰川は、田んぼの中に自然に湧き出てくる川である。昭和40年に1級河川に指定された。古来暴れ川として知られ、地元には川の怒りを鎮めるために人身御供をささげたことや、修行中のお坊さんの千日坊が人柱になった言い伝えがある。ほぼ松本地区の中心を東西に流れている自然豊かな川を改修前から見据え、しっかり住民の愛情が注がれる豊かな自然あふれる川にしていこうと考えている。



自治会連合会と共に、定期的に川の自然を守るための清掃活動を展開している。改修工事までに、川を美しく守り、自然豊かな川として復活させ、改修後も、住民に親しまれる川として未来へ伝える活動につなげていく。



教育事業と連動して、川に興味を持ってもらうためのイベントを開催。改修された川の美化をどのように保てるか、住民サイドで、自然を守り考え実行することのできる心を育てる事業を開催している。



底喰川を考える会代表
小山 弘三さん

小学6年から当地区在住。川とは魚釣りなど自然と親しむことで関わってきた。平成11年頃から水害に取り組み一応の見通しがたったことを機に「自然豊かな底喰川を取り戻すことを考えている。昔のような生物空間を実現したい」と話す。

松本公民館

住所／福井市文京1-29-1
電話／0776-22-0085
交通機関／京福バス「松本小学校前」バス停から徒歩1分、えちぜん鉄道「まつもと町屋駅」から徒歩6分

日新地区の誇り

いいとこのばそう わがまち日新



底喰川の清掃・美化活動について。昭和54年から改修工事が行われていたが、大変汚染された状態であった。平成10年度から、まちづくりの一環として取り組むようになった。現在の取組としては、①定例清掃(3月～11月の毎月第4日曜日)、②市のクリーン作戦に合わせた自治連主催の一斉清掃(3、7、11月)、③福井商業高校や藤島中学校生徒による清掃ボランティア活動、④岸辺にミソハギや花ショウブの植栽、川に親しむ活動として⑤水中の生き物や周辺の植物の採集・観察活動(「生き物観察会」、「底喰川ウォッチング」)を実施している。(写真:左上②、右上③、左下④、右下⑤)



「日新かるた」に関する一連の取組について。いきいきライフセミナー(旧成人学級、現郷土学習)の活動。①平成21年度「日新かるた」、②24年度「日新かるたマップ」、③25年度「日新かるた見て歩きMAP」、④26年度「案内看板」を作成。(写真:上②、中③、下④)



コミュニティバス(日新さんさんバス)の運行について。まちづくり交通部会が担当。地域の交通弱者の買い物や通院の利便性向上が目的。平成24年11月5日試行運行開始、平成27年5月21日3年間の本格運行開始。目下、さらなる利用促進策を様々に実施中。



日新公民館 館長
廣瀬 行雄さん

館長の廣瀬さんは、「昭和51年に既存の3地区(西藤島・春山・湊)の一部分を分割・合併して誕生した比較的新しい地区。それぞれの環境、歴史、文化の違いを生かしながら、新旧住民が力を合わせて地域づくりに活発に取り組んでいる」と話す。

日新公民館

住所／福井市文京5-1-8
電話／0776-21-7225
交通機関／えちぜん鉄道「福大前西福井駅」から徒歩3分

清明地区の誇り

清明の宝 みんなで作る「御代参祭り」



平成26年の御代参祭りに向けて、3つの婦人グループと自治会連合会の皆さんで、行列で使用する一文字笠、太刀、やり、十文字、手持ち箱などの小物や奴の衣装(法被、前掛け、籠手、脚絆)などを手作りした。



平成29年の御代参祭りを盛り上げようと、住民16人が中心となり、地区の皆さんから頂いた着物の帯を飾りに使い、鎧、兜、陣羽織を製作。約3か月間、細かい根気のいる作業だったが、和気あいあいと楽しい時間を過ごした。



江端町日吉神社境内に三日月池がある。この池の水を飲むと難病が治るとのことで、多くの人が利用していた。1770年、第12代福井藩主松平重富公がこの水を飲み脳の病が治ったので、同年6月15日にお礼の御参拝をなされ、葵紋付戸張提灯を寄進されたと伝えられている。その後毎年御代参があり、廃藩まで続いたと言われている。地区の伝統的な歴史を伝えようと、平成26年に「御代参祭り」として再現すべく、清明まちづくり委員会では、3年ごとに開催することを決め、平成29年6月開催に向け準備を進めている。



平成27年度から清明まちづくり委員会庶務
前川 喜美恵さん

清明まちづくり委員会庶務担当に加え、2017御代参祭り実行委員会では行列部会副部長を担当。「地区の皆さんとともに、手作りの御代参祭りを盛り上げていきたいと思っています」と話す。

清明公民館

住所／福井市下荒井町8-414
電話／0776-38-0043
交通機関／福井鉄道「清明駅」から徒歩10分(清明小学校北西)

社南地区の誇り

心を動かし未来への扉をあけよう

自分の住むまち(生活の舞台)を住民の方に案内していただき、様々な住民と触れ合いながら、インタビューをもとにして作成したぶらり社南マップ。山あり、川あり、橋あり、公園あり、樹木あり、記念碑あり、そこに住んでいる人達にとっては当たり前のことが、他地域の人にアピールする資源となったりすることもある。そして、歩いていると、今まで気づけなかった自分の住むまちの細部が気になり「まちの面白さ」の発見にも繋がる。



桜に親しみを感じる日本人は、文化にも取り入れている。わがまちの“隠れた桜の名所”、“私の好きな桜通り”など、住民からの情報をもとに桜めぐりマップを作成。桜は地域共有の財産であり、地域の価値を高める資産でもある。



昭和34年5月第11代福井市長坪川信三氏。昭和43年11月建設大臣(第2次佐藤栄作内閣)。昭和47年12月総理府総務長官、沖縄開発庁長官(第2次田中角栄内閣)「郷土を愛すれば愛する程、郷土への理解は深まるであろう」(氏の言葉)



社南公民館 館長
竹内 寛さん

平成17年4月から現職。社南地区は、北に足羽山・兎越山・八幡山を望み南に城山を見ることができ、その中を日野川・江端川・狐川が流れ、木と緑が美しい地域である。人口も増え続け活気があり、住みよいまちである。

社南公民館

住所／福井市種池2-206
電話／0776-35-9559
交通機関／京福バス「京福社団地」バス停から徒歩1分

社西地区の誇り

育てよう 住みたくなる町 やしろ西



社西地区には、今から約300年前、度重なる水害に頭を悩ませる村人達が完成させた輪中をテーマにした、『社西劇団ちもり一座』がある。この劇団は、平成20年11月に発足し、現在までに数回公演を行っている。素人の集まり劇団だが、みんなの絆は強く、今よりもさらに練習を重ねて地区の名物にしたいと思っている。



社西の伝統芸能を目指して『社西輪中太鼓』の会が発足した。(一財)自治総合センターの宝くじ助成金を受けて、新しい太鼓を7台購入することができた。週に一回、公民館で自主練習に励んでいる。



平成28年11月3日、文化の日に新しい太鼓のお披露目を行った。輪中集落完成300周年にあたる平成30年は福井国体と重なり、創作太鼓の発表を目標に、太鼓を打つ人達は、より一層頑張っている。



社西公民館 館長
吉田 トシエさん

平成25年から現職。「社西地区には誇れることが数々ありますが、伝統芸能とよばれるものは残念ながらありません。『社西劇団ちもり一座』、『社西輪中太鼓』の2つを伝統に築き上げていきたいと考えております」と話す。

社西公民館

住所／福井市久喜津町65-23
電話／0776-34-7910
交通機関／京福バス「運動公園1丁目」バス停から徒歩5分

和田地区の誇り

和田発展不已(わだはってんやまず)！



「地域の魅力発信事業」の一環で、済生会病院北側にれんげ畑を作り、平成17年度から「れんげ和ん田あ〜らんどまつり」を毎年開催している。その後はソバを栽培し、収穫したソバを使用して作った「れんげソバ」を地区民に振舞っている。



和田女性ふるさと研究会は、地域に元気と笑いを与えられるような豊かな郷土づくりを目指している。その一つは、地区の畑で安納芋を育て「収穫祭」として、和田元気っ子くらぶの子ども達に安納芋の学習と料理教室を開催している。



和田地区の一押しは「くちバク和いわい劇団」。その名の通り事前にセリフを吹き込んだテープの音声に合わせて、役者が「くちバク」で演じるという風変わったスタイルが特徴。脚本には和田地区に実在する地名やゆかりの言葉をセリフに織り交せて、観客が地区の様子や文化を身近に感じられるよう、方言たっぷり愛嬌いっぱい演技している。劇の発表のメインは「和田地区敬老会・ふれあいまつり」という地区最大の祭。この活動を通して【団結・つながり・絆】を大事にし、和田地区の地域力を高めたいと思っている。



和田公民館 館長
北島 喜一さん

和田地区は人口の増加に伴い、平成28年4月に念願の公民館が新築。館長の北島さんは、「今後も“和田発展不已(わだはってんやまず)！”和田の発展はつづいていくを合言葉に地区の更なる発展に向け努力していきます」と話す。

和田公民館

住所／福井市御幸4-9-20
電話／0776-22-0038
交通機関／京福バス「和田公民館前」バス下車

啓蒙地区の誇り

歴史と伝統を大切に、人を繋ぐまち「啓蒙」

初代福井藩主結城秀康や芝原用水など地域の歴史を住民に知ってもらうにはどうしたらよいか。その思いから平成23年に立ち上げた子ども劇「啓蒙キッズ」。「福井学」推進事業として募集、地元の小学生をはじめ、脚本・監督・美術もすべて地区住民。毎年10月の地区文化祭で披露し、今では目玉の一つとなっている。今年は劇中のよろい・かぶとづくりも郷土学習として開始。地区有志を募り、材料も住民から提供いただいた帯や着物などを使用。子どもの劇練習と並行して、大人も悪戦苦闘しながらよろい・かぶとを完成させ、本番に華を添えた。



公民館前の休耕田を平成24年から花壇として活用。花壇名は地区から募集して、「啓蒙ふれあいわくわく花だん」と名付け、色とりどりの花が咲いている。年2回の植え替え時には市民憲章郷土美化部を中心に子どもから大人までが参加し、花を育てている。



伝統野菜「新保ナス」を活かそうと、郷土学習で郷土料理の実習を推奨。後継者不足で一度途絶えた「新保ナス」の美味しさを継承するため、ナスの「田楽」や「からし漬け」はもとより、「コンポート」などの新しい料理にも挑戦している。



岡保地区の誇り

水と緑のまち岡保



豊かな水と緑に恵まれた地区であり、次郎丸町には太古から湧き出ている「岡の清水(おかのしようず)」がある。文明13年(1841年)の頃、宮地町の吉備神社を朝倉二代氏景が建立した際、その手水に使ったといわれる。泉の辺には藤の老木があり、花の盛りには美観を呈し、一名「藤の泉」とも記録にある。現在は「岡の泉」と呼ばれ、地区の農業や生活用水として住民の生活に密着しており、各地からまろやかな水を求めてくる人が絶えない。平成5年度福井市都市景観賞受賞。



福井県農業試験場が立地する岡保で栽培・収穫したコシヒカリと、戦国大名朝倉氏ゆかりの湧水「岡の泉」が原料となった純米吟醸酒である。地区の魅力を地区内外に広めることをねらいに作られ、各メディアにも取り上げられ注目されている。



「東山アクアスロン大会」は地域資源を活用した住民手作りの大会として、全国から300名を超えるアスリートの参加と200名を超える住民ボランティアで開催。集落内での温かい声援、田園風景の中を走り抜けるコースが好評を得ている。



啓蒙公民館 館長
佐々木 昭博さん

平成27年から現職。「水と緑が豊かで安全安心な啓蒙地区。多くの地区住民を巻き込みながら、歴史と伝統を伝え、地区の活力を大きく膨らませる活動を推進していきたい」と話す。

啓蒙公民館

住所／福井市開発1-2105
電話／0776-54-0046
交通機関／えちぜん鉄道「越前開発駅」から徒歩5分



岡保公民館 運営審議会委員長
天谷 弘之さん

平成27年から現職。青少年育成岡保区民会議会長、岡保まちづくり委員会事務局次長兼任。青少年育成やまちづくりにも関わる中心的存在。「みんなの知恵で、女性や若者が活躍する岡保地区になればと思っています」と話す。

岡保公民館

住所／福井市河水町10-13
電話／0776-54-2519
交通機関／京福バス「河水」バス停から徒歩1分

西藤島地区の誇り

藤と桜の里・西藤島の深い絆を紡ぐために



日野川、九頭竜川、足羽川に囲まれた当地区は幾度となく大きな水害に見舞われた。杉田定一翁は莫大な私財をなげうって、九頭竜川・日野川の治水に尽力され、村を水害から救った。その謝恩の碑と九頭竜川の直轄事業として100年を経過した記念に建てられた治水百周年記念碑(西藤島治水記念公園)を守り続けていく。



西藤島のイルミネーションは、次世代を担う若者に地区への興味を持ってもらうことを目的に7年前から実施している。平成28年は、小学校の児童にデザインを考えてもらい、「地区内外の人達にホッコリとした気持ちになって家路についてもらえれば…」と願っている。



地域の名所史跡を訪れ我が郷土を理解すると共に、参加者相互の親睦と健康増進を図り、地域愛を深めることを目的として、桜の咲く頃に「こんにちはファミリーウォーク」を実施。平清盛に寵愛された祇王祇女の屋敷跡、旧福井藩松平家の墓所の堂宇を譲り受け移築された観音堂、加賀の一向宗徒が越前の国守朝倉氏と勝負を決する構えで戦い、双方に相当の死者を出した戦があり、その多くの霊を慰める首塚、斯波高経の抛城で、新田義貞との戦いの時活躍した小黒丸城址などを巡り、語り部(西藤島郷土歴史くらぶ員)さんの説明を聞く。また公共の施設等も訪れ、メインロードである桜吹雪の舞う中、公民館へ戻って行く。



西藤島公民館 館長
川端 京高さん

平成25年から現職。「西藤島地区は日野川、九頭竜川、足羽川に囲まれた肥沃な土地柄で農業を中心とした住宅街となっています。三郎丸を中心とした新興住宅地の人達と所謂「元村」の人達とうまく融和して、色々な事業もうまくやっています」と話す。

西藤島公民館

住 所／福井市三郎丸1-1410
電 話／0776-22-0040
交通機関／京福バス「西藤島小学校前」バス停から徒歩数秒

河合地区の誇り

大空と風が吹き抜けるまち 河合



「河合ニコニコ王国フェスタ」は、河合ニコニコ王国事業推進委員会が中心となり、広大な農地と大空を吹き抜ける風に恵まれた田園地帯を活用し、凧あげとそばの祭典を20年間にわたり開催している。フェスタには、豊かな自然環境の中で凧あげの「作る楽しみ、あげる楽しみ、見る楽しみ」、そばまじりの「観る楽しみ」「味わう楽しみ」がある。そして、これまで地域の交流と連帯や青少年の健全育成に貢献している。地区内の老若男女はもとより、県内外から多くの参加者を得て、一大イベントとなっている。当地区の特性を生かしたまちおこしの祭典が一層盛大になるように取り組んでいきたい。



「河合の歴史を探索するロマンの会」は、歴史に関心のある有志が地区内の民俗・民話を掘り起こし、未来を担う子ども達に伝えるため、親子で読む冊子作りに取り組んでいる。また、本年は「古里をのろしでつなごう」に参加し、鷲塚神社で狼煙あげを実践した。



「鷲塚針原駅」は、えちぜん鉄道三国芦原線の駅で駅舎本屋は国の登録有形文化財に指定され、現在は、福井鉄道との相互乗り入れの折り返しの駅となった。カラフルな低床型車両が止まり、レトロな駅舎と近未来的なフォルムの車体の組合せが面白い。



「河合の歴史を探索するロマンの会」会長
加藤 良三さん

会長を務める加藤良三さんは郷土歴史愛好家で造詣も深く、地区内外で研究を行うとともにその成果を数多く発表している。当地区においては永年にわたり郷土歴史愛好会のリーダーであり、ロマンの会を牽引している。

河合公民館

住 所／福井市川合鷲塚町9-18
電 話／0776-55-0001
交通機関／えちぜん鉄道「鷲塚針原駅」から徒歩10分

森田地区の誇り

文化と活力のあるまち森田

九頭竜川は、県内外の釣り人から「サクラマスのブランドリバー」と呼ばれている。

また、流域はアラレガコの生息地として、国の天然記念物に指定されており、そこで、『サクラマスサミット』では、「九頭竜川を誇りにしよう」と、



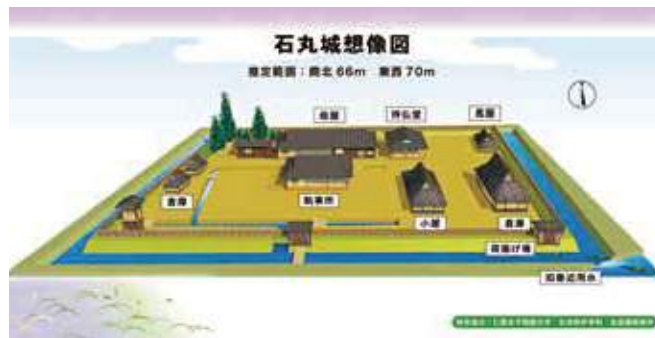
県内外の釣り人と、地元住民との対話集会や、川環境を整えサクラマスやアラレガコを守り増やすための学習会を開催している。この思いを後世に残すために、子どもたちに伝えたり、食文化の継承のために「森田定食」を考案したり、この定食を振る舞えるまでしようと活動の広がりを見せている。



JR森田駅を利用者にとって、愛着のある駅にしようと夢駅を開催し、イルミネーションや、電車への乗車体験などを行い、イメージアップを図っている。また、駅舎内の「夢ギャラリー森田」では、月替わりで作品を展示している。



森田の石盛町はもともと「石丸」という地名で、南北朝期の「太平記」には石丸に城があったという記述がある。平成22年の遺跡発掘では烏帽子が出土し、そのことから、城跡公園としての整備気運が高まってきた。



安居地区の誇り

未来へ伝えよう歴史・文化・自然

5月下旬から約1か月間、集落に沿うように流れる未更毛川にゲンジボタルが飛ぶ。全長約6kmのうち2kmほどの川面を乱舞する様子は新聞に度々掲載され、地区内外を問わず県外からも見物人が訪れるようになった。平成16年の福井豪雨や、その後の土地改良工事による影響を受けたものの、環境講座として開設された安居の里を守る会が中心となり、ホタル保全活動を行った結果、現在は出現期間中の最盛期で2,700頭を数えるまでになった。自治連合会やまちづくり組織も川の清掃などに努め、小中学生を巻き込んだ活動が継続されている。



当地区には県域絶滅危惧Ⅰ類に指定されているミズアオイが自生しており、安居壮年会が中心となって種の採取、育苗、定植活動を行った結果、現在では地区内3カ所に7月から10月初旬まで、青い花を咲かせ住民の目を楽しませている。

公民館には、住民から提供された農機具や生活道具、貝塚や古墳からの出土品を展示した郷土資料室が設けられている。現在は、安居中学校生徒制作のジオラマが展示されるとともに、白を活用した椅子とテーブルも置かれ憩いの場となっている。



前 森田公民館 館長
吉村 公司さん

教職を退職後、公民館館長を歴任。「森田地区の歴史や文化に精通し、地区の課題を解決するために、さまざまな活動を展開してきました。地区内外へのPR活動も積極的に行い、森田への誇りが高まりました」と話す。

森田公民館

住所／福井市下森田藤巻町2
電話／0776-56-0195
交通機関／JR「森田駅」から徒歩5分



安居公民館 館長
皆川 潔さん

平成10年から安居公民館主事、平成19年に館長となり現在に至る。前職である警察官としての粘り強さを活かした事業推進と公民館運営により、住民からの信頼も厚く、学校や団体との連携を強化した。

安居公民館

住所／福井市本堂町7-4
電話／0776-37-1234
交通機関／京福バス「本堂」バス停から徒歩3分

一光地区の誇り

限界集落に隠れた宝あり

水芭蕉は山地帯から亜高山帯の湿原など冷涼な気候に分布し、この場所に自生するのは全く不思議な気もするが、これは第四紀の氷河期の頃、氷河の先端に乗って南下し、その後気温が温暖になって退去するときに取り残され、かろうじて生き残ったものである。このような植物を残存種(遺存種の植物)といい、非常に貴重なものであるにもかかわらず、昭和45年頃福井新聞に掲載されるまでは、地元の住民はどこにでもある植物としか思っていなかったようだ。現在では取立山の福井県側の群生地は既に絶滅してしまったようだが、一光地区ではこの貴重な宝を大切に保護していきたいと考えている。



五太子町には落差20メートルの滝があり、夏場は他地域より約10℃程度涼しく別界である。国道183号線と駐車場からは、アルミの手摺が新調されどちらからも簡単に見学ができる。ぜひ一度、全身にマイナスイオンのシャワーを満喫しに行ってみてはいかが。



昭和62年頃までは地区の老人会や一光校の児童たちが丹精を込めて整備していた。当時は500株以上あったが、今では100株以下に減少、今や群生地とは名ばかりである。県内外に同じDNAの物が移植されたのであれば大変残念である。



一光公民館 主事
竹内 慶一さん

平成22年7月から一光公民館主事に就く。一光地区を良くしたいという気持ちを原動力に、高齢者を対象にした教育事業や地域の宝に関する研究に熱心に取り組んでいる。

一光公民館

住所／福井市下一光町6-5
電話／0776-37-0168
交通機関／JR「福井駅」から車で40分

殿下地区の誇り

歴史と自然が湧き出すみんなの殿下地区



小高い山々に囲まれ、美しい水が流れる殿下地区。農林業に頼ってきた昔とは一変した暮らしの中で、今の自然を守り、伝統を繋ぎながら新たなことに挑戦していこうとする多くの団体がある。その団体が協力して様々な祭りや行事に取り組んでいることで、多くの方々を訪れている。



明治42年に創設。現在は秋祭りの際、神社に奉納した後に町内を「村舞」で練り歩く。以前は青年会がその勤めを担っていたが、地区外への流出が多く、存続の危機になったが、保存会を立上げ現在に至っている。



かじかの里山殿下は地区の里づくり組合の一部として始動し、平成25年4月に本格オープン。バイキングスタイルの農家レストランは地区内外のお客様に好評。殿下のそばも好評で、今後は殿下産のそば粉で勝負したい。



殿下公民館 館長
長井 眞見さん

平成15年より現職。真向法の祖として有名な勝鬘寺の現住職。元教員で地区民の信頼も厚く、各種団体の取り纏め役として日々奔走されている。そして何より殿下地区の発展を心から願っている。

殿下公民館

住所／福井市風尾町1-13
電話／0776-97-2377
交通機関／京福バス「風尾」バス停から徒歩2分

越廼地区の誇り

越廼の魅力を実感しよう！



全国の公民館でもきつとここだけ。公民館の屋上に小さな天文台があり、中には天体望遠鏡がある。越廼は街灯りが少なく、小さな星までよく見えて、海に面しているため広範囲で星空を見ることが出来る。土星や月を見る観測会を開催している。



昔から手打ちそばを作る家庭がある。公民館では昔からの風習を再確認し、伝承する大切さを感じてもらおうと、毎年、年末の年越しそばの時期に合わせて、地域の方に講師をお願いして、そば打ち会を開催している。



越廼と言えば「海」。小学校3～6年生を対象とした「越廼リーダーズ倶楽部」では、平成26年度から越廼を楽しむ知恵を身に付けて、越廼の良さを体感する学習を実施している。地域の方にご協力いただき、魚釣りや魚のさばき方を教えてもらったり、船釣りやわかめ採りの体験をしている。越廼に住んでいても初めて体験する子が多く、魚が釣れなかったり、うまくさばけなかった子もいたが、活動を通して越廼の魅力を感じてもらい、越廼に愛着を持ってもらいたいと思っている。



越廼公民館 館長
松原 司郎さん

館長の松原さんは、「越廼地区は、海洋性気候により自然風土や歴史は海の影響を大変強く受けています。子どもたちにはこの土地柄の中で培われてきた多くのことを実際の体験を通して学び、これからの人生に生かして欲しいと願っています」と話す。

越廼公民館

住 所／福井市柴崎町1-68
電 話／0776-89-2182
交通機関／京福バス「蒲生」バス停から徒歩2分

清水西地区の誇り

生き物と共生できる里地里山をめざして



清水西地区は、水田・畑等の耕作地、草地、樹林が大半を占めている地域である。周辺の農地・ため池は、絶滅が危惧されている「八丁トンボ」「ギフチョウ」の繁殖・生息地でもある。また、多様な鳥類の採食地や中継地ともなっており、コウノトリ6羽が大空を舞う姿が人々を感動させた。これからも里山での活動を楽しみながら、人と自然が共生できる環境の維持管理に努め、未来の子ども達にこの地域の宝を残したいと考えている。



「自然と遊ぼう」や「志津の庄ふるさと探訪」の中で、ため池観察会や史跡めぐりをして豊かな自然や歴史を再認識し、地元ゆかりの詩人『広部英一』氏の詩の背景になった里山の生き物や美しい景観を未来に残したい思いで活動している。



地域の人達の指導で子ども達が作った「西公石窯」で焼いた猪や鹿の肉が好評。餌を求めて人里まで下りてくる生き物を食害対策としてジビエ料理にして活用している。木の実を食べて育った天然の肉は、低脂肪、高栄養でヘルシーである。



清水西公民館 館長
木下 成三さん

館長の木下さんは「清水西地区の自然豊かで美しい環境には、住んでいる方々がまだ知らない希少野生動物植物がたくさんいることがこれまでの活動で分かってきました。自らの手で守り育み新たな発信になればと願っております」と話す。

清水西公民館

住 所／福井市大森町20-43-1
電 話／0776-98-4560
交通機関／京福バス「清水西小学校前」バス停下車

清水南地区の誇り

花と緑にあふれ、歴史が息づくまち「清水南」



ふくい健康の森入口県道交差点に4つの大型花壇がある。地域のお花ボランティア「虹の会」のメンバー16名と公民館職員が、花苗の育成からデザイン、水やり、草取りなどの管理を行っている。清水南の顔として多くの人に親しまれている。



毎年、幼児から高齢者まで100人以上が参加して、「語り部と歩くふるさとウォーク」を開催している。このウォークは、地域の生き活きまちづくり委員会が、ふるさとのよさを知り、誇りと愛着を深めてもらおうと、平成21年から毎年地区を替えて実施している。



日野川と天王川の流れで育まれた水と自然豊かな清水南地区は、「美しいまち」、「花と緑にあふれた潤いのあるまちづくり」に取り組んでいる。地区の11自治会すべてに立派な花壇が整備されており、一年中季節の花々が咲き誇っている。花壇の世話は住民がボランティアで行い、年2回公民館が行う花壇づくり講習会に参加し、技能を高めている。すべての自治会が8月に行われる市の花壇コンクールに応募し、毎年多くの自治会が入賞。また、農道の法面に芝桜を植えるなど、景観づくりにも取り組んでいる。



清水南公民館 館長
玉村 啓二さん

昨年発足した清水南地区まちづくり協議会の事務局長を務め、『生き活きまちづくりプロジェクト』を推進している。「清水南地区は、恵まれた自然と先人たちの努力と英知で築かれた歴史、文化を有する穏やかなまちです」と話す。

清水南公民館

住所／福井市風巻町21-17
電話／0776-98-4590
交通機関／京福バス「清水プラント3」バス停から徒歩3分

清水北地区の誇り

☆里山があってウラヤマシイ☆
里山は遊びの場・学びの場に



清水北地区は水田や里山など多くの自然が残る地域。里山には、スギ林や雑木林など多様な森があり、春はカタクリ、山菜、夏はカブトムシ、クワガタ、秋はクリにきのこに紅葉、冬は真っ白な雪景色など、四季折々の素晴らしい自然が広がっている。しかも標高は高くなく、色々な歩道があり誰でも手軽に行くことの出来る身近な里山である。そこで、この素晴らしい里山が住民の憩いの場となるように、自然を生かした地域づくりが進み始めた。



清水北地区里山の会は、草刈りや間伐などのフィールド整備のほか、園児や小学生を対象とした自然教室や観察会、トレッキングなど季節ごとにイベントを開催し、四季折々の里山での体験活動を通じて里山の魅力を発信している。



ギフチョウの生息に必要なカンアオイ類とカタクリ等の春植物が共に生息し、早春には春の妖精「ギフチョウ」が舞う。また、初夏にかけて、希少植物「ササユリ」が咲く。和名は葉の形が笹に似ていることから「笹百合」である。



清水北地区里山の会 事務局
松井 洋輔さん

事務局の松井さんは、「よく里山に年中散歩に行ったり、子どもと遊びに出掛けたりしています。いつ行っても森の表情が違い、常に色んな発見があります。里山はまさに自然のテーマパーク。そんな場所が身近にある清水北地区が私は好きです」と話す。

清水北公民館

住所／福井市グリーンハイツ5-131
電話／0776-98-5477
交通機関／京福バス「清水北小学校前」バス停から徒歩3分

大安寺地区の誇り

～泰澄大師の昔より えにしゆかしき～大安寺



地区の宝でもある大安禅寺を会場に、毎年6月の花菖蒲祭りの期間中に平成23年からエコキャンドルと竹灯籠祭りを開催している。児童生徒・地区のお年寄りによるイラストの灯籠が見どころである。



花菖蒲に灯籠の明かりが映え幻想的な雰囲気の中、演奏会が開かれ、たくさんの方が楽しめる地区のイベントになっている。現在は、火を取り扱うことへの危険性を考慮してLEDキャンドルを使った竹灯籠祭りをやっている。



当地区の南西にある大安禅寺の山門の脇に独鈷水公園がある。この公園は、元々地元住民を土砂災害から守るための堰堤で、平成5～7年度に渡り県の「田ノ谷川せせらぎ溪流保全整備事業」により改修されたが一時期地区の人々からも忘れられていた。その独鈷水公園を地区の住みよい町づくり委員会が平成15年から、遊歩道にはさつきやあじさいを植え周辺には桜の植樹も行い再び整備した。今では四季折々に美しい風景を見る事ができ、地区の新たな名所となりつつある。



大安寺公民館 館長
奥出 邦夫さん

平成21年から現職。当地区の名称「大安寺」の元となった臨濟宗妙心寺派の名刹大安禅寺は、福井藩主松平光通公が先祖のご恩を忘れず感謝するため建立した。また、福井藩主の墓所としては名実共に日本一の千畳敷がある。

大安寺公民館

住 所／福井市四十谷町5-20-1
電 話／0776-59-1001
交通機関／京福バス「四十谷」バス
停から徒歩2分

鶉地区の誇り

偉人がつなく地域の輪「鶉」

杉田定一先生は、明治・大正の頃、政治の正しいあり方を求め国政や郷土の発展に自分の財産を投げ出して一生を捧げた、鶉の里で最も尊敬されている人物である。

衆議院議員として北海道長官、衆議院議長など国政の場で活躍されただけでなく、農民のために地租改正の再調査や九頭竜・足羽・日野川の改修や金津・三国間の鉄道の建設など郷土の発展に尽くされた。

杉田鶉山遺徳顕彰会・鶉山会の皆さんを中心に、後世に先生の業績やふるさとを愛する心を称え伝えるために、昭和60年に鶉公民館前庭に銅像を建立した。



旧鶉村の住人が明治時代に同町に移住し、開拓した上砂川町との交流は、これからの地区を担う小中学生の交流へと発展してきた。毎年相互に訪問し、交流を深めることは、自分たちの郷土の良さを再認識することにもつながっている。

8月に住民総力の「鶉の里夏祭り」が行われている。従来の「鶉山祭り」を2007年に改名し、地区有志の実行委員会が企画・運営する。祭り最大の特徴は、越前和紙を使った七夕飾り。ステージ・屋台で盛り上がる会場を華やかに熱く彩る。



鶉の里づくり委員会 副会長
吉田 正人さん

副会長の吉田さんは、事業の一つ「青少年育成」について「近年若い芽が出てきました。3年前から1月に開催の「新成人の集い」。企画・運営・実行の全てで力を発揮する若者達。発想力・行動力で将来地区での活躍が期待できます」と話す。

鶉公民館

住 所／福井市砂子坂町5-58
電 話／0776-83-0433
交通機関／京福バス「砂子坂」バス停
から徒歩7分

鷹巣地区の誇り

豊かな自然と伝承芸能が生きづくまち



鷹巣海水浴場は、越前加賀国定公園の中にあつて全国屈指の透明度を誇り、福井を代表する海水浴場。近辺には民宿・旅館があり、旬の日本海の魚を味わうことができます。夏には浜茶屋が立ち並び、マリンスポーツや釣りも楽しめる。



「ふくいのおいしい水」に認定されている水分神社の湧水は、腐らない水として地元のみならず遠方から水を汲みに来る人が絶えない。水分神社では、昔からの言い伝えにより毎年6月24日に境内で奉納相撲が行われている。



糸崎町に奈良時代中頃から伝わる国内でも貴重な伝統芸能で、平成16年に国指定重要無形民俗文化財に指定された。西暦の奇数年の4月18日に真言宗智山派・糸崎寺の境内にある石舞台上で舞い踊る。糸崎寺は、養老年間泰澄大師によって開山され、天平勝宝の頃唐僧禅海上人が明州育王山に似た景勝山として発見し本尊である千手観音菩薩像が大亀に乗って現れ、大光明と共に菩薩や天女が紫雲に乗って庭に舞い降り、喜びの舞として仏舞が伝えられている。仏舞は、金色の仏の面をつけ黒の法衣に身を包んだ12人の舞手が奉納する。



鷹巣公民館 館長
山口 浩之さん

平成23年から現職。「当地区は自然景観に恵まれ、四季を通して海浜に親しむことができます。地区には免鳥古墳や鷹巣城址の歴史遺産の他、糸崎寺の仏舞(国指定)や夜網節(市指定)などの伝承芸能が残されています」と話す。

鷹巣公民館

住所／福井市養町16-2-1
電話／0776-86-1001
交通機関／京福バス「鷹巣公民館前」バス下車

宮ノ下地区の誇り

地区民こそっての宮ノ下コスモス広苑



一人の農家の人がコスモスでみんなが楽しんでもらえればという気持ちから始まったコスモス広苑。コスモスまつりも今年で22回を迎え17haに1億本もの花が咲く「宮ノ下のコスモス」として全国に知られるようになった。コスモスの種まきや草取り、コスモスまつりなど子どもから高齢者まで地区民一丸となって取り組み、地区民同士の絆を深め、県内外からの交流にもなり、地区の誇りや活性化につながっている。



宮ノ下の知名度を上げるため、平成14年度から取り組んでいるウェルカム植栽。川西の玄関口となる、国道416号線菅生橋北詰法面にさつきで宮ノ下の文字を表し、アピールしている。今では宮ノ下のシンボルとなりおもてなしとして定着。年4回の整備と除草は困難な作業だが、共に汗を流すことで地区民の絆も深まり地区の誇りに繋がっている。



巨大コスモス迷路は“コスモスを見るだけでなく体感できる場所に”をコンセプトに、まちづくりをはじめ育成会や壮年会の若手世代の活躍で昨年復活した。子どもたちと一緒に種を蒔き、草取りに汗を流したり大変な作業があるが、迷路の中を走り回る子ども達の歓声が大きな喜びとなっている。



まちづくり宮ノ下地区委員会 会長
時澤 季味王さん

育成会・壮年会の会長を歴任して平成28年度からまちづくり宮ノ下地区委員会の会長に就任。伝統を守りながら、新しいアイデアを仕掛け、若手世代を始め子どもから高齢者まで参加する地域づくりをモットーに、「みんなで地区を盛り上げなあかん」と目を輝かせながら夢を語る有言実行の情熱の人。

宮ノ下公民館

住所／福井市島山梨子町22-9
電話／0776-59-1150
交通機関／京福バス「島山梨子」バス停から徒歩5分

東郷地区の誇り

地域の絆を深める「東郷街道おつくね祭」

「東郷街道おつくね祭」は、毎年8月初旬に開催される地区民総参加のお祭り。平成6年度から始まった福井市の「うらがまちづくり推進事業」の一環として、平成7年に始まり、今年で20回を迎えた継続事業となっている。目玉は、東郷米5俵(300Kg)分の「おつくね(おむすび)無料配布」、各自治会の手作り神輿と子ども達によるパフォーマンスなどが繰り広げられる。その他、お米にちなんだメインイベントとして「俵運びリレー」や「わらすべ投げ選手権」がある。盆踊りでは、地区の「おつくね音頭」「横山音頭」で輪になって踊る。



「東郷街道おつくね祭」で無料配布されている「おつくね」は、足羽川の扇状地で栽培された有機米コシヒカリで作られている。土壌が砂質のため肥料が持たなく、タンパク質成分の少ない美味しいお米である。



将来を担う若者を育てるため、中学生の皆さんに「東郷のまちづくり」に参加してもらっている。「東郷街道おつくね祭」では提灯設営からイベントのアシスタント、ゲームコーナーやお好み焼きコーナーの運営を担当していただいた。



第20回「東郷街道おつくね祭」実行委員長 増永 英之さん

元商社マン。家業を継ぐためUターンし、地域づくりのメンバーとして活躍。増永さんのアイデアと行動力は目を見張るものがあり、今回、祭りで初めて100発の打上げ花火を上げ、東郷の夜空を彩った。

東郷公民館

住所／福井市東郷二ヶ町6-13-1
電話／0776-41-0306
交通機関／JR「越前東郷駅」から徒歩15分

中央公民館の誇り

福井のよさを広げよう！



平成19年4月に中央公民館はアオッサに移転し、様々な社会教育事業を実施してきた。市民の皆様は、福井らしさや福井のよさを再確認していただきたいと考え、平成28年度から教育事業の各種講座を体系化し、「ふくい中央みらいカレッジ」とした。各コースにおける学びを通じて、受講者の「福井のチカラ」がますます向上し、「つるつるいっばいのおもてなし」の心が大きく広がっていくことを願って取り組んでいる。



11月26日(土) 13:30~16:30
前期のプロフェッショナル1校長先生の日による
●特別企画 ●ドキドキワクワク 謎解き♪

講座	13時20分までに集合	担当校長先生
9時30分~	オリエンテーション	野島直樹校長
1時開校(13:30)	福井のゆるキャラの謎	横山直樹校長
2時開校(14:30)	福井が生んだ偉人の謎	藤原孝子校長
3時開校(15:30)	福井のスポーツの謎	藤原直樹校長
4時開校(16:30)	福井の自然の謎	藤原直樹校長
5時開校(17:30)	福井の歴史の謎	藤原直樹校長
6時開校(18:30)	福井の未来の謎	藤原直樹校長

※内容は変更になることもあります。
※参加費 無料。福井市の市民センターに予約する場合は「謎解き」が無料です。

当館は、福井学の学習センターとしての役割を担い、毎年、福井学基礎講座を開講している。各地区館の特色ある教育事業、まちづくり事業等について、講義、実践発表、館外学習を織り交ぜた内容の深いカリキュラムとなっている。また、平成27年度からは、講座生を対象とした専門(歴史)コース、平成28年度からは福井の歴史、偉人等についてグループで協力しながら謎解きをする「福井謎解きスクール」を開講している。



中央公民館運営審議会 委員長 柳澤 昌一さん

委員長の柳澤さんは、「福井学も10年。50の公民館を拠点に特色ある取組が展開されていることが強みです。中央公民館では地区での取組を結ぶ基礎講座が毎年重ねられています。その蓄積を活かし、広く発信していく時期にきています」と話す。

中央公民館

住所／福井市手寄1-4-1
アオッサ5F
電話／0776-20-5459
交通機関／JR「福井駅」・えちぜん鉄道「福井駅」から徒歩1分、福井鉄道「福井駅前駅」から徒歩2分

あとがき

福井市が平成19年に「福井学」推進事業と銘打った市内全公民館での郷土学習の取組をスタートさせてから約10年。各地区では、それぞれの地域に根ざした学習が展開されており、その取組は本当に素晴らしいものばかりです。しかし、これらの取組を知りたい！と思った際、情報を得るためのツールは非常に少なく、何か1つに情報が集約されたものを作り上げるべきではないかと感じ、この冊子の制作に至りました。

この冊子を通して、ご自身のお住まいの地区はもちろんのこと、他地区へも視野を広げ、ますます本市を好きになっていただければ幸いです。また、これを機に本市が有する郷土の宝に興味関心を高めていただくとともに、誇りと愛着を持って県内外に幅広く情報を発信していただければ本当に嬉しく思います。

結びに、今後も本市の公民館の取組にご理解とご協力を賜り、よりよい生涯学習の場を提供し続けられるよう努力してまいりますので、各方面からのご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。